

2009年スケジュール

2009年6月18、19日

厚生労働省全国油症治療研究会議

ホテルレガロ福岡に於いて開かれました。

全国油症一斉検診

下記の11班により年に1回実施しています。

詳細は、各自治体にお問い合わせください。今年度の検診は、終了しているところもあります。

昨年の研究成果

6月18、19日に全国油症研究会議が開催されました。多数の基礎的・臨床的研究の報告が行われました。その概要をご紹介します。

1) 九州大学病院歯内治療科の友清先生は、ヒト歯根膜細胞株がダイオキシンの受容体であるアリル炭化水素受容体を発現し、リガンドの刺激によりmatrix metalloproteinase-1の発現が亢進し、タイプ1コラーゲンの発現が減少することを明らかにされました。この研究は油症患者さんの歯周病の発

生メカニズムの解明とその治療に結びつく可能性があると考えられます。

2) 九州大学整形外科の福士先生は、骨密度検診の結果について解析され、女性の37.9%、男性の4.8%に骨粗鬆症が認められたと報告されました。また長崎大学理学・作業療法学講座の吉村先生は、骨吸収の指標となる尿中I型コラーゲン架橋N-テロペプチドが、一般人に較べ油症患者さんで減少していることを報告されました。

3) 九州大学病院医療情報部の徳永先生は、認定患者さんの2,3,4,7,8-PCDFの減少率について解析されました。男性の認定患者さんではPCDF濃度が高いほど減少率が高いこと、女性の認定患者さんでは体脂肪率が高いほど減少率が低いことを示されました。奈良県立医科大学の赤羽先生も血中PCDF濃度の半減期について解析され、従来考えられていたより半減期が長い患者さんたちが存在する可能性を示されました。

4) PCBは代謝過程で活性酸素を産生し、酸化ストレスの原因となっている

可能性があることから（油症新聞2号をご参照下さい）、長崎大学皮膚科の清水先生は血清中の酸化ストレスの指標となる物質（カルボニル化蛋白）を、穂山先生は抗Peroxisome oxidoreductase I抗体を測定し、油症患者さんと一般人を比較しましたが、差は認められませんでした。

5) 福岡県保健環境研究所の梶原先生は平成20年度油症検診でのダイオキシン類測定結果について報告されました。2,3,4,7,8-PCDFの血中濃度は、認定患者105名では平均111.7 pg/g lipid、未認定者174名では18.0 pg/g lipidでした。

6) 九州大学病院油症センターの三苦先生は平成20年度福岡県油症検診受診者の皮膚症状について解析を行い、PCBパターンがAパターンの患者さんは、他のパターンの患者さんに較べて、皮膚症状が残存している割合が高いと報告されました。また内先生はアレルギー性疾患で高値を示すことが多い血清IgE値と、血中ダイオキシン類濃度との間には相関が認められないことを報告されました。

平成21年度自治体連絡先

福岡県班 (福岡県、大分県、宮崎県)
福岡県保健医療介護部保健衛生課
食品衛生係
TEL: 092-643-3280

長崎県班 (長崎県、佐賀県、熊本県)
長崎県県民生活部生活衛生課
食品乳肉衛生班
TEL: 095-895-2364

関東以北班 (東京都、川崎市、埼玉県、さいたま市、茨城県、長野県、横浜市、神奈川県、栃木県)
埼玉県保健医療部食品安全課
食品保健担当
TEL: 048-830-3608

千葉県班 (千葉県)
千葉県健康福祉部衛生指導課
食品安全対策室
TEL: 043-223-2638

愛知県班 (岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)
愛知県健康福祉部健康担当局
生活衛生課食品安全対策グループ
TEL: 052-954-6297

大阪府班 (滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)
大阪府健康医療部食の安全推進課
安全推進グループ
TEL: 06-6944-6706

島根県班 (島根県、鳥取県)
島根県健康福祉部薬事衛生課
食品衛生グループ
TEL: 0852-22-6292

広島県班 (広島県、岡山県)
広島県健康福祉局保健医療部
生活衛生課食品衛生室
TEL: 082-513-3104

山口県班 (山口県)
山口県環境生活部生活衛生課
食の安心・安全推進班
TEL: 083-933-2974

高知県班 (愛媛県、高知県、香川県)
高知県健康政策部健康づくり課
TEL: 088-823-9677

鹿児島県班 (鹿児島県、沖縄県)
鹿児島県保健福祉部生活衛生課
食品衛生係
TEL: 099-286-2786